

## 1. 事前の状況

学 級	抽出児童
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「道徳の授業で、これまでの自分のことを思い出して考えている」という質問に対する肯定的な回答は4割にとどまっている。</li> <li>・意欲的に学習活動に取り組む児童が多い反面、自分の思いや考えを記述や発言で表現することが苦手な児童が数名いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的に学習に取り組むことができるが、他者の考えを受け入れることが苦手で、考えを広げたり深めたりしにくい。</li> <li>・道徳の学習において、これまでの自分自身を振り返って考えたり、学習したことと生活を結び付けて考えたりすることへの意識が低い。</li> </ul>



## 2. 評価とフィードバックに対する指導者の考えや気付き

<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を評価するために、学校の重点内容項目である「友情、信頼」に着目し、年間を通した視点をもって授業づくりを行う。</li> <li>・評価やフィードバックの効果的な場面や方法を工夫し、児童の成長の実感や意欲につなげることを目指したい。</li> </ul>
---



## 3. 評価とフィードバックの充実に向けてのおもな手立て

<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価の視点を基に、児童が何をどのように学び、どんなことに気付くとよいのかを具体的にイメージし、本時で目指す児童の学びの姿を引き出す学習展開や発問になっているかを意識して授業を構想する。</li> <li>・児童がネームカードを黒板に貼ったり、ハンドサインで意思表示をしたりする活動を授業に取り入れ、児童一人ひとりの学びの姿を評価し、積極的にフィードバックを行う。</li> </ul>
--



## 4. 本時の様子

### (1) 本時のねらいと展開

●主題名 本当の友達とは 【内容項目 B 友情、信頼】

●教材名 「絵はがきと切手」(「小学道徳 生きる力4」 日本文教出版)

●本時のねらい(下線部は目指す生徒の学びの姿)

料金不足を知らせるかについて悩むひろ子の心情を考えることを通して、よりよい友達関係を築いていくうえで、友達のことを信頼し、助け合うことの大切さに気付き、信頼関係や友情を深めていこうとする態度を育てる。

●本時における評価とフィードバックの工夫

- ・中心発問ではペアで話し合う活動を設け、判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えている児童の発言や記述を座席表に記録し、個別に認める言葉がけを積極的に行う。
- ・本時の終末では、自分なりの課題を見つけたり、これから自分の生活や生き方に生かそうとしたりしている児童の発言や記述を捉え、意図的指名により学級全体に広げたり、発言した児童に認め励ます言葉がけを積極的に行ったりしてフィードバックの充実を図る。



(2) 評価とフィードバックの実際

	学習活動・主な発問	評価・フィードバック ※( )内は評価を行う対象
導入	1. 事前アンケートを基に、主題について話し合う。 ○「友達」とは、どんな人のことか。	
展開	2. 教材「絵はがきと切手」を読んで考える。 ○正子から絵はがきをもらったひろ子はどんな気持ちになっただろうか。  ○部屋に戻ったひろ子は、どんなことを考えただろうか。  ◎ひろ子は、どんなことを考えながら正子さんに手紙を書き始めたのだろうか。(中心発問)  3. 考えを深める。 ○「本当の友達」とは、どんな人のことだと思うか。	<div data-bbox="917 427 1433 539" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                         指導者は両端の意見だけでなく、中間の位置で迷っている児童にも考えを問うた。                     </div> <div data-bbox="954 577 1390 887" style="text-align: center;">  </div> <p>ネームカードを貼り、自分の考えを示す児童</p> <p>評価の視点①(記述・発言) ☞言葉がけ、意図的指名</p> <p>評価の視点①(発言) ☞言葉がけ、意図的指名</p> <p>評価の視点⑥(発言) ☞言葉がけ</p> <div data-bbox="655 1193 874 1563" style="text-align: center;">  </div> <p>本時に学んだことをまとめた板書</p>
終末	4. 本時の学習を振り返る。  <div data-bbox="339 1682 764 2018" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="font-size: small;">いままで、のぼくは、まっか、て いることを友達か、これ、いた、ら、 た、ま、り、た、け、ど、こ、れ、か、ら、は、ま、ち、か、 て、い、る、こ、と、を、友、達、か、や、り、て、 い、た、ら、ち、や、ん、と、ま、ず、つ、か、な、い、 て、い、ど、の、と、ら、い、ま、で、注、意、し、 て、い、き、た、し、を、し、て、自、分、 か、ま、ち、か、て、い、る、こ、と、を、し、 り、た、ら、ち、や、ん、と、注、意、し、 ほ、い、い、こ、れ、が、友、達、だ、と、思、い、 う。</p> </div> <p>抽出児童の振り返り</p>	<p>評価の視点：友達のことを信頼し、助け合うことの大切さを理解し、自分なりの課題を見つけたり、これからの自分の生活や生き方に生かしたりしようとしているか。(発言、記述) ☞言葉がけ、下線、コメント記入</p>

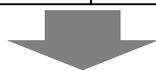
### (3) 本時に向けた授業構想および実践から学んだこと・気付いたこと

- ・児童が自分のネームカードを黒板に貼ったり、友達の意見に対する自分の考えをハンドサインで表したりする等、児童が意思表示する活動を取り入れることで、個々の児童の学びの姿を評価しやすくなり、フィードバックにつなげることができた。
- ・本時の終末で、道徳的価値の理解の深まりや新たな気付きに対して、積極的に認める言葉がけを行ったことで、児童はこれまでの自分の経験を想起し、自分なりの課題を見つけたり、これから自分の生活や生き方に生かそうとしたりしている発言や記述が見られた。



## 5. 児童の変容

学 級	抽出児童
<ul style="list-style-type: none"><li>・道徳の学習への意欲が高まり、自分の思いや考えを積極的に伝え合う児童の姿が多く見られた。</li><li>・「道徳の授業で、これまでの自分のことを思い出して考えている」という質問に対して9割以上の児童が「当てはまる」と回答し、学習したことと自分の生活をつなげて考えることを意識している児童が増えたと考えられる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・「道徳の授業の中で楽しいと思ったり、もっと学びたいと感じたりするときはどんなときですか」という質問に対し、「自分の考えを友達の意見と比べるとき」と回答した。授業の中で、友達の意見を聞いて考えたうえで、自分の考えたことを積極的に発言するようになった。</li><li>・自分自身を振り返り、これからの生活に生かしたいという思いをもつ姿が見られるようになった。</li></ul>



## 6. 指導者による振り返り(成果と課題)

- ・授業づくりにおいて、「本主題における児童の学びの姿」、「学びの姿につながる指導」、「児童の学びの姿についての評価とフィードバック」を具体的に考え、指導の意図を明確にすることができた。「評価の視点」をもつことは、指導者が、学習指導過程や指導方法を改善する手掛かりとなった。
- ・学習活動の中で、「評価の視点」を基にして児童の学びの姿を認めたり励ましたりする言葉がけを積極的に行ってフィードバックを行うことは、児童が、本時の道徳的価値について自己を振り返り、成長を実感する機会につながった。
- ・授業の中で、自分なりの課題を見つけたり、学んだことをこれから自分の生活や生き方に生かそうとしたりする児童の姿が多く見られるようになってきた。学習したことが日常生活での実践意欲や態度によりつながるよう、学習指導過程や指導方法を改善し、評価とフィードバックを充実させることを意識したい。

## 道徳科の授業を実践される先生方へのメッセージ

指導者が、評価とフィードバックに重点を置いて授業づくりに取り組んだことで、児童が自分のよさや成長を実感したり、自分を見つめ、よりよい自分を思い描いたりする姿につながりました。このような道徳科の授業の実践を継続することで、児童が多様な見方や考え方に触れ、道徳性を育てていくことができると考えます。授業の中で、児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子、道徳的価値の理解の深まりを適切に評価し、積極的にフィードバックする道徳科の授業づくりを広めていきたいです。

